秩父宮記念スポーツ博物館・図書館の概要

1) 秩父宮記念スポーツ博物館・図書館とは

- 「スポーツの宮様」として親しまれた<u>秩父宮雍仁(ちちぶのみや やすひと)</u>親王(1902 1953)のスポーツ界に対する功績を記念し、スポーツの振興に資するため、1959年旧国立競技場スタンド内に開館。日本で唯一の総合スポーツ博物館。
- 国立競技場の建て替えに伴い2014年休館、足立区綾瀬の倉庫に仮事務所移転。
- 2022年1月6日に国立競技場内に秩父宮記念ギャラリー開室。
- 2022年4月1日に<u>千葉県船橋市の倉庫に仮事務所移転</u>。再開館に向けた準備を進めている。



秩父宮記念ギャラリー (国立競技場内)

2) 秩父宮記念スポーツ博物館・図書館の概要

- 開館: 1959年(昭和34)1月
- 博物館法上の位置づけ: 博物館相当施設
- 主な収蔵品・蔵書:

博物館 約6万件 (秩父宮関係資料、オリンピック関係資料、明治期〜現代の日本のスポーツ資料) 図書館 約16万冊 (江戸後期〜明治・大正期の貴重書、オリンピック・国内競技大会公式報告書、スポーツ専門雑誌、競技団体機関紙)

3) スポーツ博物館の体制 (2023年7月1日現在)

- 博物館係/図書係/管理係
- 館長・主幹1名、学芸員4名、司書2名、事務系職員1名、事務補助者・ボランティア

4) 「業務方法書」上の位置づけ

- 5条3項 センターは、秩父宮記念スポーツ博物館を利用して、次に掲げるスポーツの振興のため必要な業務を行う。
 - (1) スポーツに関する資料の収集・保存、展示・公開、調査研究及び教育普及
 - (2) その他スポーツの振興のため必要な業務



2. 主な博物館資料

■**秩父宮殿下関係資料:約100件** 秩父宮愛用のスキー、登山用具、日本選手団旗、他

■オリンピック関係資料:約10,500件

聖火トーチ、聖火ランナーユニフォーム、入賞メダル、日本代表選手団公式服装、公式ポスター(東京1964オリンピック、東京2020オリンピック)、他

■日本のスポーツ史資料(明治〜現代):約47,700件 マラソン足袋、バンジョウラケット、下駄スケート、国民体 育大会関係資料、旧奥立競技場関係資料、他

■総数:約58,300件



1964年オリンピック東京大会1・2・3号ポスター

3. 主な図書館資料

■図書:約40,000冊

「第十八回オリンピック競技大会公式報告書 上下」 (1966)、「The fifth Olympiad: the official report of the Olympic games of Stockholm, 1912」(第5回ストックホ ルム大会報告書)、他

■雑誌:約125,000冊

『運動界』(1897-1900)、『野球界』(1908-1959)、 『アサヒスポーツ』(1923-1956)、他

■総数:約165,000冊



スポーツ総合雑誌『アサヒスポーツ』 (1923-1956年)

4. 近年の取り組み

1)文化庁補助事業 → https://www.jpnsport.go.jp/Portals/0/sportmuseumnet/

- スポーツミュージアムの連携によるスポーツレガシーの継承・啓発プロジェクト(令和2~3年度)
- スポーツミュージアムのネットワーク構築を目指す
- 2022年2月12日にシンポジウム(オンライン形式)を開催

2) デジタルアーカイブ ⇒ https://www.i-repository.net/il/meta_pub/G0000672Chichibu

- 秩父宮記念スポーツ博物館デジタルアーカイブを2020年8月に公開
- 他館連携による「スポーツデジタルアーカイブ」の構築を目指し、所蔵 資料の目録整備、デジタル化の推進

3) 共催・協力等による展覧会の開催

- スポーツNIPPON展(東京国立博物館 2021年7月13日~9月20日)
- Tokyo 1964: Designing Tomorrow(ジャパンハウス・ロンドン 2021年8 月5日~11月07日)
- アウトリーチ展 TOKYO 1964-2020 ユニフォームでみる東京大会(市 川市役所:2022年10月、別府市・太陽ミュージアム:2022年11月)

5. 新しい博物館・図書館に向けて

※新しい博物館・図書館は、新ラグビー場内に設置することで検討中

1) スポーツ博物館将来構想 (2019年3月策定)

- コンセプト「スポーツの多様な価値を伝えるネットワークの拠点」
- 必要な機能: 収集・保存、調査研究、展示・公開、教育普及、交流

2) 資料の収集方針の策定 (2021年3月策定)

■ 4つの収集テーマ: <u>①スポーツイベント、②競技、③人物、④デジタル情報</u>





ミューアムネットワークシンポジウム(2022年2月)



アウトリーチ展(市川市役所、 2022年10月)



秩父宮記念スポーツ博物館 本懇談会設置までの経緯

	~ 113 170 A	I MANAGEMENT OF A SALEST
1959(昭和34)年	1月	スポーツ博物館が国立競技場内に開設される(図書館も併設)
2012(平成24)年	7月	国立競技場の老朽化に伴い、「新国立競技場将来構想有識者会議」において、新しい国立競技場の将来構想を検討。新しい国立競技場に求められる要件のうち、スポーツ振興機能として、スポーツ博物館・図書館等を整備することを了承
	11月	JSCが1月に設置した秩父宮記念スポーツ博物館・図書館の在り方検討委員会において、「新秩父宮記念スポーツ博物館・図書館(仮称)基本構想」を策定 (新国立競技場内に、スポーツ博物館・図書館を整備)
2014(平成26)年	5月	2020年東京オリンピック・パラリンピック競技大会の開催決定に伴い、新国立競技場を整備することとなり、一時休館し、足立区綾瀬に倉庫を借りて移転
2015(平成27)年	7月	新国立競技場整備計画が白紙撤回となる
		新しい整備計画では、新国立競技場の施設については「原則として競技機能に限定する」とともに、「スポーツ博物館等のスポーツ振興を目的とした施設は設置しない。」とされたため、移転先について未定となる
		(秩父宮雍仁親王殿下の御遺品については、新国立競技場に保存)
2018(平成30)年	6月	JSCの第4期中期目標において、「スポーツ博物館や図書館の今後の在り方について、その機能や役割などを、平成30年度中に結論を出して具体的な取組を進める」ことを文部科学大臣から指示
	7月	スポーツ博物館将来構想検討会議の設置
2019 (平成31)年	3月	「スポーツ博物館将来構想」策定
	11月	「資料の価値づけ及び収集方針策定等検討ワーキンググループ」設置
2021(令和3)年	1月	「秩父宮記念ギャラリー」(国立競技場内)開室
	3月	「秩父宮記念スポーツ博物館・図書館資料収集方針」策定
	6月	独立行政法人 日本スポーツ振興センター「新秩父宮ラグビー場(仮称)基本計画」策定
		○施設整備の基本的な考え方
		「スポーツの多様な価値を発信するスタジアム」(スタジアムのコンセプトの一つ)
		「秩父宮記念スポーツ博物館を起点として、様々なスポーツの価値を発信し、知的な刺激や楽しみを分かち合い、語り合える場・機会を提供する」
		「文化交流施設として新秩父宮ラグビー場(仮称)に付帯して整備するスポーツ博物館については、資料の収集保存や調査研究、展示、教育普及等の学芸業務をはじめとする運営業務は原則としてJSCが行う」
2021(令和3)年	9月	独立行政法人 日本スポーツ振興センター「新秩父宮ラグビー場(仮称)整備・運営等事業 実施方針」の公表(スポーツ博物館要求水準書を含む)
2022(令和4)年	4月	収蔵庫および事務所を東京都足立区綾瀬から千葉県船橋市に移転
2023(令和5)年	3月	「秩父宮記念スポーツ博物館 展示基本計画」を策定
	9月	展示設計委託業務 契約締結
	11月	有識者懇談会の設置

